

BrightEyes 瞳を輝かせて

# 輝

## 安心、安全、愛情を込めたナシ作り 全国経営基盤強化促進委員会会長賞を受賞

鈴木 智仁さん（三好下）

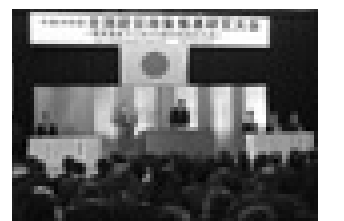
**農** 業経営の基盤強化を目指し、日々農作業の改善に取り組み農業者をたたえる「全国経営基盤強化促進委員会会長賞」。今回は日ごろの取り組みが認められ、見事受賞を果たしたナシ栽培者、鈴木智仁さんを紹介いたします。

鈴木さんの取り組みは主に「土壌改良」。畑の栄養分となる有機物を土にしっかりと浸透させるため、畑に深い溝を作ったり、ナシの成長の妨げとなるカリウム成分が少ない牛ふんたい肥を使用したりするなど、数々の工夫を行ってきました。「ナシが一番いい状態で育つよう改良に取り組んできました。まさか受賞できるとは思いませんでしたが、本当にうれしいです。今回の受賞が『三好のナシ』の全国PRにつながれば」と感想を話します。



### ▶▶▶プロフィール

すずき・ともひと 昭和43年生まれの35歳。平成4年12月の就農後、平成9年9月、平成14年9月に優良認定農業者として三好町から、平成14年5月にエコファーマー（※）として愛知県知事から認定を受ける。現在2.2haのナシ畑を父、妻と営む。趣味は海へ釣りに行くこと。※エコファーマー＝持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画を県知事に提出し、その計画が適当である旨の認定を受けた農業者のこと



1月23日に農林水産省で行われた受賞式

鈴木さんがナシ作りを始めたのは今から11年前。結婚をきっかけに、それまで勤めていた会社をやめ、奥さんの家業であるナシ農家を継ぐことを決めました。「始めは休みが一日もない生活に慣れず大変でした。生まれて初めての農作業で、とにかく必死でした。そんなわたしを勇気づけてくれたのが、一緒に畑をやってくれる妻、そして休みに手伝いに来てくれる友人たちでした。畑を始めて10年以上、今でも畑に来てくれる彼らには、本当に感謝しています」とこぼす。

鈴木さんのナシ作りには大きな影響を与えたのは、ナシ栽培の指導講習会を全国で展開している円谷正秋さん、そして畑を培ってきたお父さんです。「畑を始めてまだ間もないころに円谷先生の指導を受け、ナシに対する愛情の大切さを学びました。またこれだけ多くのナシを育ててきた父は、尊敬すると同時に、同じ農家としてライバルでもあります。父の畑を自分が駄目にしたくないというプレッシャーと、父に負けたくないという気持ち、そしてナシへの愛情が畑改良の原動力なんです」。

「安心、安全、愛情を込めること」これは鈴木さんのナシ作りのテーマです。「人に個性があるように、ナシにも個性があります。わたしはその個性を生かし、それぞれの木が成長するのに一番いい環境を作ってやるのが、何より大切だと思っています。今後もよりよい『土づくり』を目指していきたいですね」と瞳を輝かせます。

これからも愛情のこもったおいしいナシを作ってくださいね。

## みつけたみよしの はつらつさん

### 健康に大切なのは体の「活性化」

広瀬 鈞さん（明知下）

「老梅に 我人生を 思い立ち」  
これは老いてもなお美しく花を咲かせる梅の木に感動して、広瀬さんが詠んだ一句です。「皮一枚になっても根さえしっかりしていれば、新しい枝が生え、美しい花を咲かせる。梅の木は、力強い『命』そのものです」と笑顔で話す広瀬さんは現在、28鉢の盆梅を育てています。盆梅とは鉢植えの梅のこと。中には樹齢200年を超えるものもあり、花を咲かせるためには毎日の手入れが欠かせません。「毎朝起きるとまず、盆梅の様子を見ます。植物を育てるのは子育てと同じこと。毎日語りかけ、愛情をもって接することが何より大切なんですよ」。

盆梅のほか季節の花やブドウ畑の世話、老人クラブの活動など精力的に取り組む広瀬さん。「健康に大切なのは体の『活性化』です。わたしにとっての活性化は、人とのふれ合いや植物の世話やり、そして本をたくさん読むことかな」とこぼす。これからも笑顔いっぱい、元気に活躍してくださいね。



### ▶▶▶プロフィール

ひろせ・ひとし 昭和6年生まれの73歳。平成15年度三好町老人クラブ連合会明知下支部長を務める。盆梅をはじめ、ゴルフやゲートボール、グラウンドゴルフ、俳句、読書など多趣味。  
【明知下老人憩いの家で盆梅展開催中】  
2月22日(日)まで、明知下区老人活き活きクラブによる盆梅展を開催しています。皆さんぜひお越しください。

## みよしっ子 が

### 北中学校 太鼓クラブ

北中学校の太鼓クラブを紹介します。顧問の勝野啓哉先生と部長の竹下絵理香さんに話を伺いました。

「練習の基本は、とにかくバチを使っ  
て太鼓をたたくこと。バチのたたきすぎ  
で、手にまめをつくってしまうことも多  
いのですが、上手にたたけるようになる  
と、これほど迫力があり、また達成感の  
ある楽器はないと思います」と竹下さん  
は笑顔で話します。

日本の伝統楽器・和太鼓。現在28人の  
部員たちが、この伝統芸能に挑戦してい  
ます。クラブの活動は、文化祭などの学  
校行事での発表のほか、地域のお祭りに  
ボランティアで参加すること。行事の前  
や夏休みは、三好太鼓クラブの加藤信友  
さんに教わっています。「練習は厳しい  
ですが、みんなで協力し、楽しく活動し  
ています。また太鼓の発表には人数の制  
限があるので、部員間での競争心もあり  
ます。わたしたちは良き仲間であり、同  
時に良きライバルなんです」と竹下さん。  
勝野先生も「ただ仲が良いだけでなく、  
互いに敬意を持って接する。こうした人  
と人とのつながりを大切にしていってほ  
しいですね」と目を細めていました。

